

# 福祉系高等学校の 現状と今後的一端

平成18年10月25日(水)  
AM10:00~12:00

全国福祉高等学校長会

理事長 高橋 福太郎

〔学校法人 東奥学園 理事長・学園長  
東奥学園高等学校 校長〕

## I 福祉系高校卒業生に対する評価

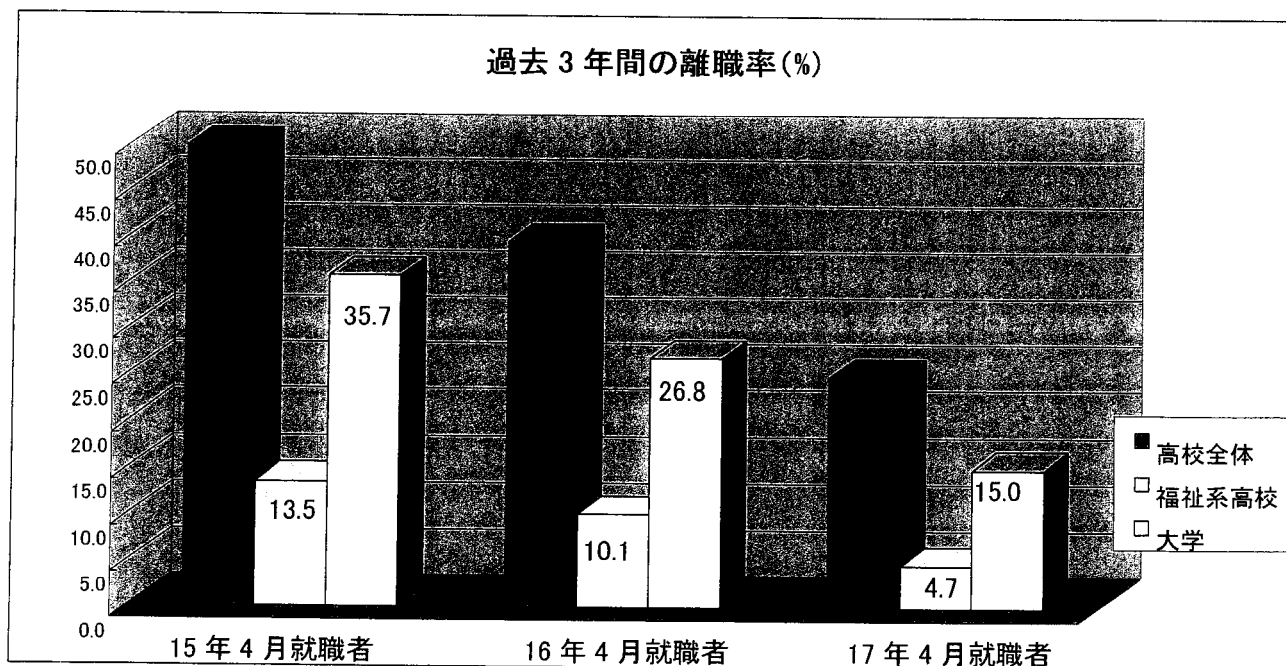
### 1. 新規高等学校卒業生の就職・離職状況

福祉系高校は平成17年度で187校を数える。高校で3年間にわたり介護福祉士に関する専門的知識と技術を学習した生徒たちは、卒業後進学・就職へとそれぞれの道を歩みはじめる。

福祉系高校のうち福祉科高校を卒業した生徒の平成17年度の進路状況は、進学者が46.6%、就職者が47.5%を数える。進学者に占める福祉分野への進学は実に62.8%にのぼることは、福祉科高校で学習した専門性を更に深め、あるいは新たな資格取得へと自己の向上心を高めようとする表れである。また、就職者における福祉分野への就職割合は79.9%を占め、高校における学習を即戦力として活かす生徒と、それを受容する施設、職場が一体化している証である。

この数値から読み取れるのは、福祉系高校に入学し早い時期から介護福祉に関して学習をした生徒たちは、中学在学中に抱いた福祉という自分の将来を、確固たる信念で貫きとおしている者が多いということである。早い時期から福祉に自分の道を見出し専門的に学習し、その道に就いた者の力は、これからの福祉の現場において非常に大きく重要なものになっていくのである。

就職した福祉系高校卒業生のその後の離職率は次のグラフのとおりであり、他に比べ非常に低い数値を示している。



先に述べたように、中学時代に選択した自分の進路が、福祉系高校での学習により着実に具現化している。早い時期に自らが選択した福祉に携わる夢・希望と、職場での現実とのギャップの少なさがその数値の低さを示している。そこには当然、福祉系高校の学習における現場実習での体験が大きく影響している。つまり、高校在学中に実際の福祉の現場状況の一部を体感することにより、就職後の現実とのギャップが他に比べ少なくなる。まさにこのことが重要である。それが福祉の現場への定着率の高さとして表れ、職場への定着が利用者のためになる真の「福祉人」としての更なる成長へとつながるのである。

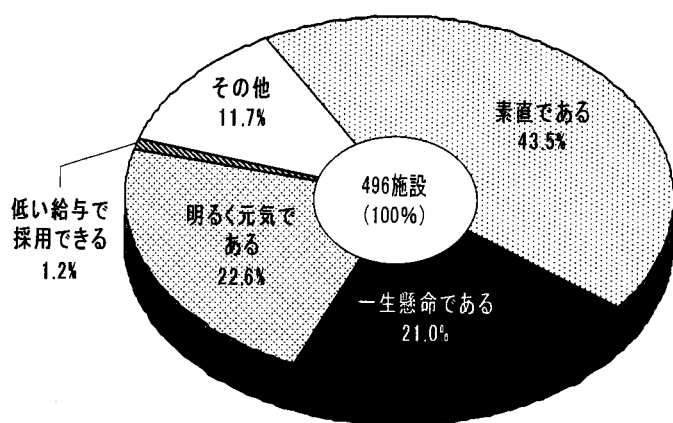
## 2. 高校卒介護福祉士資格取得者の施設での評価

(全国 496 施設アンケート回答にもとづく)

平成18年1月全国福祉高等学校長会で全国589施設を対象に調査した結果、福祉系高校を卒業した介護福祉士に対する施設の評価・印象が明らかとなってきた。この調査に対する回答は、全国496施設(回答率:84.2%)に上り、施設の関心も非常に高くなっている。以下にその一部のデータを提示する。

### 採用理由

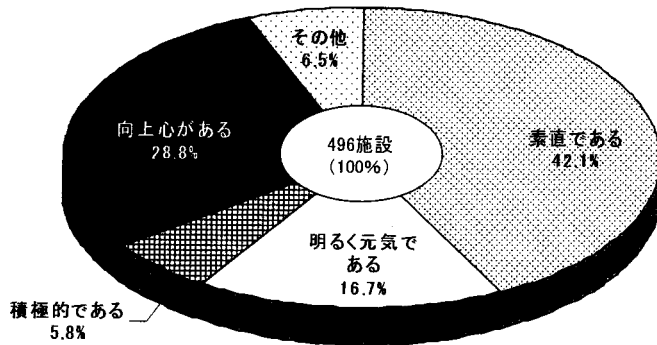
◎素直であり、施設方針等に馴染みやすい . . . 43.5%



素直さ・明るさ・一生懸命さと、純心で施設の方針を素直に受け入れ、明るく一生懸命に取り組む良さが認められているところが、採用の根拠になっている。

**良いところ**

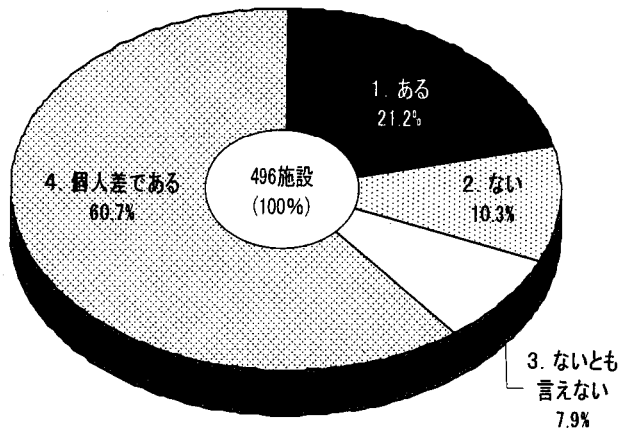
◎素直であり、指示されたとおり業務を遂行する . . . 42.1%



利用者の好感と元気の源となる素直さ、向上心、明るさが、最も施設から良い点と評価されている。

**高卒資格取得者と専門卒以上資格取得者との格差**

◎個人差の問題である . . . 60.7%  
(何ら差がない)



高卒資格取得者と専門卒以上の資格取得者との間には、あまり差がないとの評価を得ている。

以上のデータから読み取れることは、福祉系高校卒業の介護福祉士は、それぞれの施設において個々の「若さ」と「素直さ」が前面に出ていることにより、現場での更なる養成に耐えうる資質を感じ評価されているということである。

## II 教員の資質向上

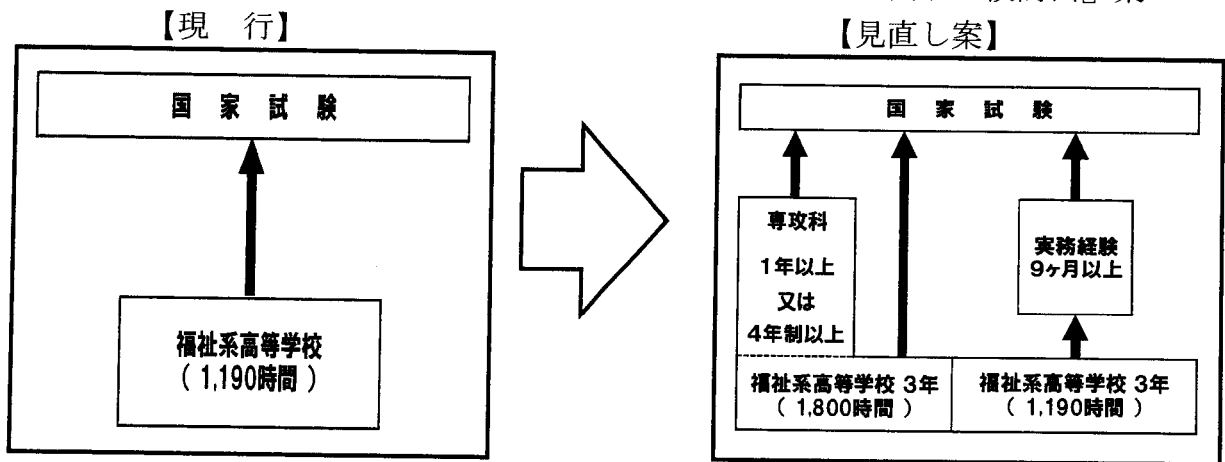
福祉系高校では、生徒に介護福祉士や訪問介護員といった将来のスペシャリストとしての基礎・基本をベースに、より高い専門的な知識と技術を身に付けさせることに教育の柱を置いている。本来、介護福祉は臨床性の高い実践的な学習である。また介護福祉士の質は、実践者の資質と能力に左右される。そのため、将来の福祉を担う生徒たちを指導する教員にも、福祉に関するより専門的な知識・技能と指導に関わる資質が大きく問われるのである。

平成11年度、高等学校学習指導要領に新たに専門教科「福祉」が位置付けられたのを機に、教員の資格として「福祉」の教員免許が創設され、福祉系高校の教員の資質の向上が図られている。

更に、「福祉」の教員免許取得のみならず、福祉教育に関わる教員の多くが、自己研鑽を積み重ね、社会福祉士・介護福祉士等、関連する資格取得に努めている。

## III 今後に向けて

『介護福祉のあり方及びその養成プロセスの見直し等に関する検討会』案



これから迎える超高齢化の日本社会の介護を支える上で、福祉系高校で学ぶ生徒の若い力、向上心、意欲等がより一層重要なものとなっている。

このような状況の中で、『介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの見直し等に関する検討会』から示された、介護福祉士養成の見直し案を真摯に受け止め、福祉系高校は、社会が求めているより高いニーズに対応出来る資質の高い介護福祉士の養成を図るため、高校における福祉教育の充実・発展に努めてまいりたい。